

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570313627		
法人名	有限会社 わかば会		
事業所名	グループホーム きらら浅舞		
所在地	秋田県横手市平鹿町浅舞字道川南77-7		
自己評価作成日	平成28年9月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	平成28年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が温かく穏やかな雰囲気の中で過ごすことができるよう職員もゆったりとした気持ちで入居者様と関わっている。館内を一望できるホールはプライバシーを大事にしながらも安全な生活空間が守られている。ソファを多く設置して入居者の皆様、ご家族様がいつでも気兼ねなく会話できるよう努めている。地域のお祭りや買い物、家族との外出など昔ながらの馴染みの関係を大事にしており入居者様の生活の活性化に繋がっている。職員一同目指している目標は「きらら浅舞理念」であり10項目の「倫理綱領」で具体的な実践に向けて取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は近隣との付き合いや交流もされており地域に溶け込んでいる。職員も入居者の方々と穏やかな時間の中で過ごされており、居心地の良い空間にレイアウトされた場所で過ごされている。居室もお一人お一人の使い慣れたもの、小物などが配置されて安全に生活できる工夫がされて利用者本人が混乱しないように工夫されていた。職員も利用者からいろいろ学ぶことが多く、介護の仕事にやりがいを感じていると話され、職員教育についてもしっかりとした目標をもって対応していると感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入ってすぐの所に大きく理念を掲げて職員の意識を高めている。毎朝のミーティングでは全員で唱和し、又それぞれ各自ファイルを持ち常に目を通すようにしている。	毎朝のミーティングで職員が唱和しており、また各職員ごとにファイルにして持っている。入口を入るとすぐ目に付くところに理念が掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この地域では野菜や果物作りが盛んであり、その時期の果物など近隣の方が届けてくれる事もある。又散歩している時など気軽に声を掛けてくださる方も多い。	野菜の直売所、お店などが施設からほぼ1、5キロ圏内にあり、また野菜や果物を近隣の方から届けられたり、近隣の住民とも気軽に話ができる関係が築かれている	
3		○事業所の力を活かした 地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 伝え、地域貢献している	運営推進委員会の場で地域の方々に認知症の方を理解してもらう事を伝えたり、近隣の方から相談を受け、支援の方法など伝える事もある。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃よりお世話になっている利用者様のご家族、地域住民の方々と活発に意見交換を行なっている。各家族へのアンケートは行っていないが、参加されたご家族の意見を参考にサービスの向上に活かしている。	利用者ご家族の参加や警察官、消防の参加、民生委員の参加も見られている	運営会議に警察官や消防の方の参加が得られているのでテーマを設けご家族や近隣住民への参加を呼び掛けてはどうか運営推進会議をイベントのある日に開催することもよいのではないかと。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月利用者様の身体状況や生活状況、イベントの様子など地域局に提出している。9月には敬老会を予定しているので行政担当者の方を招いて行う事としている。	イベントに招待しているが参加がみられない	イベントへの参加要請だけではなく、行政担当者と密に連絡を取るためには困ったことを相談するなど日頃より良い関係を築いているのであれば、運営会議とイベントを同日開催でもよいのではないかと。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催し、職員が身体拘束について繰り返し勉強している。玄関の施錠には行っていない。日々介護している中で、身体拘束と思われる事例があった際には都度話し合いながら検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を定期的で開催して拘束をしないケアに取り組んでおりできる限り利用者の状況に寄り添うケアに心がけている。車いす利用者が前のめりになるためご家族の了解のもと体に枕をつけて前のめり予防としているができればはずしてあげたい	車いす利用者の体幹訓練をすることにより車いすから椅子へとなる。体幹訓練のことを調べてPTなどと相談してみることでも必要ではないだろうか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催し勉強している。職員の虐待につながるような言葉使い、行動には細心の注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や青年後見制度について学ぶ機会は少なく、もっと学んでいく必要があると考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の要望があれば事前に施設見学をして頂き、疑問に思う事や不安な点など十分に説明を行い情報提供している。契約時にも十分な説明を行った上で理解、納得して頂き契約に臨んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が利用者様に面会に来た際、じっくりと利用者様の様子を聞いたり、施設に対しての要望、意見など話したい場合には事務所などを利用し、気兼ねなく話して頂ける場面作りに努めている。	利用者ご家族の要望をできる限り話ができる環境作りをしている。また利用者の状況を月1回きから通信を送るときにご家族の要望、提案、苦情などを記入していただく用紙を同時に発送して意見を記入してもらっている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	午前、午後のミーティングの時間に職員の意見交換を活発に行っている。その際話した内容は、毎日の介護記録に残し全員で共有している。	利用者の様子の話が多いが毎日昼食後から14時くらいまでの間に職員の意見交換や伝達事項などを話しあいをしている介護記録に記録している	職員は自身の意見を率直に話す環境にあって、介護の仕事に生きがいや楽しさを見出している。また職場内で相談できる環境を整えられている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力、実績に応じて昇給、資格手当、賞与などがある。代表者は職員に対し同業他社より誇りの持てる職場にしたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が受講したい研修は希望に沿う様支援している。職員の技術に応じ事業所より受講を勧める事もある。事業所内では系列施設間の職場で研修を行う事もあり、自施設のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム情報交換会、南部情報交換会の研修に積極的に参加している。お互いの問題点、疑問点などを話し合いサービスの質の向上を目指して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にとって一番必要な支援は何であるのかを入居前に本人・家族・担当の介護支援専門員等から情報を収集している。面接時から入居までの期間も信頼を築ける時間とし大事にしている。入居初日は入居者と職員が一对一でじっくりと時間をかけて傾聴し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から心配、要望などを事前に情報収集し入居時の対応に備えておく。入居した後、新たな心配、要望がでた場合はもちろんのこと特に大きな変化がみられなくても、まめに連絡をしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊厳を持った態度で接している。笑いのある環境作りを心がけており、その方の生活歴を頭に置きながら会話を広げ、信頼関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が訪問された際、利用者様と職員と一緒に利用者様の様子などを伝えながら、その方を支えていく関係を築いている。又毎月の通信で利用者様の状況を伝え常に把握できるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自分の兄弟、子供、甥、姪、友達が面会に見えられた時にはゆっくりと話しが出来るよう、居室や他の方とは離れた場所で過ごしていただいている。又希望があればその方の様子がわかるように、毎月の通信の発送も行う事もある。	きらら通信は遠方の家族にも希望があれば送付しており、また面会時でもできる限りゆっくりと話せるように支援している	これまでの関係が途切れることが無いよう今後も配慮して支援をしてほしい
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体の様子を見ながら、利用者さんの会話が弾まないような場面では、職員が間に入り会話を広げたり、又、孤立する事のない様、隣に座ってもらいながら同じ作業をしてもらったりとお互いに思いやりながら支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当グループホームを退居し他施設入居や入院となった場合等、本人や家族に対して納得いくまで相談に乗り、その方にとって一番いい方法とはなにか一緒に相談し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示のできる利用者にはじっくりと耳を傾け思いや望みを組み入れる支援をしている。意思表示が困難な利用者様には家族から話しを聞いたり望んでいるであろうと考えられるいくつかの場を提供し選択しやすい支援に努めている。	利用者一人一人の思いに耳を傾け、できる限りその思いにこたえるように努力し、支援をしている。ご家族よりの要望などをきらら通信時に要望、提案、苦情などを記入する用紙を配布して家族のご意見を集約して反映している	利用者お一人お一人の思いや意向を把握し思いに応える支援をしている。今後も利用者の思いに応える努力続けてください
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 生きがい 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、担当介護支援専門員、関係者から情報を収集し基本情報を作成しその情報を職員で共有している。ご本人が大切にしてきた自宅での生活を受け入れ理解できるように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方が出来る事、出来ない事をしっかりと見極め無理のない様行ってもらっている。その日の心身の状態や様子を見ながら安心して過ごせるように支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や毎日の生活に関わっている職員からの意見を反映して介護計画を作成している。入居者ごとの担当職員の配置は行われていない。	担当職員は決めていないが毎日のミーティングやケース会議において意見を出しやすい環境の中で利用者の状況に沿った対応をしている	ケア計画については毎日の生活にかかわっている職員からの意見を反映している。ご家族からの情報も要望提案苦情の記入用紙も活用して計画作成時に訊いているが、全く何も記載されていないご家族の情報をどのように収集するかを今後検討してほしい。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、ケアサービスをもとに身体状況や気づきなど記入している。ミーティングを利用してその日のそれぞれのバイタルの確認や様子を話し合い介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにスーパー、薬局などがあり、自分が何か買いたいと思う時に職員と出かけ、自分で支払いし、その買った物を施設の方に食べさせる事に喜びを感じている方もいる。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人が希望する病院を、継続して受診されている方もいる。薬の事や身体状況については、電話で薬局、医療機関と連絡を取りながら利用者様が安定して過ごせるよう連携を図っている。	今まで通院していた病院には職員が同行しているが、ほとんどの利用者は訪問医利用ご家族の通院支援はない	かかりつけ薬局の薬剤師、訪問医師との関係づくりの工夫をして連携を図り、情報を共有できる関係づくりとご家族職員にも受診の結果をきちんと伝えていくか情報共有の方法について確認してほしい
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員が居ない為相談する事は出来ないが、利用者様の症状、状態に応じて医療機関と情報を提供し合いながら、連携を図っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、利用者様やご家族の不安を軽減できるよう頻りに訪問したり担当医師、看護師、ソーシャルワーカーと情報交換をしながら早期退院に向け治療報告を密に行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当グループホームで出来ること、出来ないことを説明した上で、利用者様のご家族、関係者と協議している。他職種の協力を得ながら、ご本人、ご家族が納得できる最善の方法で支援に取り組んでいる。	重度化や看取りについてグループホームのできる出来ないことの説明をされている。最終的には病院入院、救急搬送ということも説明しているほか、重度化した場合は専門のところに移動、介護状態が重度化した場合は介護付き有料老人ホームや、特別養護老人ホームのことを説明している。	早い段階から本人ご家族に対して説明し話し合っておられるが状況の変化に応じて繰り返しの話し合いと段階的な合意が必要かと思われる。方針の統一、重度化や終末期支援の体制を整えていく必要がある地域の関係者とともチームで支援を考慮してはどうだろうか
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変は夜間に起こる場合が多く、夜勤帯に一人で、初期対応、応急手当、救急車の要請などを行うことに不安を感じている職員も少なからずおり、実践訓練の回数を多くしていく事を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと、年2回の消防避難訓練を行っている。地震の際の避難方法についても訓練を行っており、訓練後に職員同士で再確認した。災害時には地域住民、自治会長に協力を依頼している。	年2回の防災訓練や火災訓練を行っている想定は日中、夜間を想定して行っている避難方法避難場所の確認、状況認識できない利用者の対応など地域住民や自治会長の協力を依頼しているが地域住民の高齢化もあり協力を得られていない	各部屋に災害避難袋が整備されており利用者に災害時背負わせて避難させるとのこと。中身は電燈、乾電池、タオル、濡れティッシュ、リハパン、尿取りパットは各2枚が入っている。利用者の負担にならない重さで準備されているとのこと利用者自身が避難するときに持つものとして新しく行動パターンに刷り込まれていくことが大切なことで今後も続けられていくことを期待する

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方のバックグラウンドを職員で共有し、その方に対して尊厳を持った態度で接している。穏やかな口調でゆっくりと話し、安心な気持ちを持って会話してくれるような対応をしている。	一人一人の方に職員は穏やかな話しかけている。また入浴時、排せつ介助時は同性介助を基本とし、職員の勤務の状況で同性介助ができない場合は本人ご家族の了解を得て支援している	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分が見たいテレビ番組や、散歩がしたい、入浴がしたいなどの想いを気兼ねなく職員に伝えられる関係を築き、自己決定できるように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にしながら、その方に寄り添い、傾聴し希望に添えるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カラーリングやカットは本人に「髪が少し伸びてきたけどどうする?」「白髪が目立ってきたけどどうする?」と声掛けしながら行っている。出来上がって鏡に向かってのうれしそうな表情はおしゃれを楽しんでいる様子が見えがえる。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際の盛り付けやテーブルを拭いてくださる方と役割分担しながら行ってもらっている。やらされている感を持つことのない様、職員も一緒になって行っている。	利用者一人一人役割をもって職員とともに食卓の準備をしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう 状況を把握し 、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況の悪い方は主治医の指導で補助食品を処方してもらい、ミキサー食やトロミ食と併用しながら提供している。尿の状態などから水分が不足していると思われる方には、その方が好む飲み物で対応する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い口腔の清潔に努めている。一人ではうまく磨けない方には、出来るところまで行ってもらい残りの部分の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを理解し、尊厳のある声掛けをしながら、支援を行っている。安心して気兼ねなく排泄が出来るよう自立に向けた支援を行っている。	入居時より3か月間は排泄状態や日常生活習慣などを観察し本人の希望も取り入れながらおむつからリハビリパンツへ現在は布パンツへと、また普通のパンツへ変えても尿取りパットを利用しないで自分自身でトイレにと自立に向けた支援をしている	きめ細かい観察のもと排泄の自立に向け職員が努力し情報の共有をしている。今後も情報共有して排泄の自立支援を行っていられることを望む
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックしながら、飲み込みの困難な方にはトロミをつけ摂取してもらっている。座っている時間が多く、便秘気味の方にはホール内を何周か歩いてもらい対応している。毎朝の軽体操やお腹のマッサージで便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日が入浴できる状態であり、午後から入浴したい方や一番風呂に入りたい方など、その方が希望されるように出来るだけ対応している。入浴される方は事前にバイタルチェックを行い健康状態を確認してから入浴してもらっている。	本人の健康状態や、本人の状態の変化を見逃さず、できる限り利用者の個々の希望に沿った支援をしている	入浴の楽しみや健康状態など本人の状況に合わせた支援を今後も希望します
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理して他の入居者様に合わせてご自分の生活リズムを崩す事のないよう支援している。入眠の前には興奮させる事のないよう、穏やかな気持ちで安眠出来るよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに処方薬内容、受診内容、服薬の変更など添付し職員同士で共有している。ミーティング時にも情報を確認し症状に変化が見られた時には医療機関と連絡を取りながら対応している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付け、洗濯物たたみ、草むしりなど、その方にあつた力を活かせるよう支援している。毎週日曜日にはカラオケを行い、大きな声を出し唄う事で、気分転換につながる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	回転寿司に行って寿司が食べたい。買い物が見たい。ちょっと家に行きたい。など一人ひとりの要望に沿って戸外に出かけられるよう支援に努めている。普段いけないような場所の場合には事前にその場所を下見し、ご家族と相談しながら出かけられるようにしている。	買い物の外出には職員同行の場合とご家族が外出させる場合もある外泊も家族が希望すればいつでも可能。外出外食の場合外出外食後の体調の変化を伴うことがある	外出外泊について外泊後の体調の変化についてもかかりつけ医と相談し注意事項などをあらかじめ聞いておくことも必要ではないか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、ご家族の了承を得て多からず所持できるように支援している。病院受診やドライブの際、買い物をしたい方は自ら支払する事で、生活の質を高める事につながるよう支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や母の日にお花が届いた時など、お礼の電話を入居者様にしてもらっている。いつでも電話をかけたいとの要望があれば応じている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は室温、温度を調整しながら、住みやすい空間作りをしている。台所からの調理臭、トイレの便臭には特に気を使い、お香やスプレーなどを使用しながら対応している。浴室は使用した後ハイター消毒し、しっかりと換気を行い不快な臭いが残らないよう心掛けている。	施設内は温度、湿度が調整され過ごしやすい環境になっている。施設内は柔らかい光とお香が香り、トイレ、浴室のにおいも換気が行き届いていた。以前と共用空間のレイアウトを変えたとのことで利用者の動向を職員が常に見えるレイアウトになっていた	前回浴室のにおいの改善を指摘されていたが今回は換気されており施設内全体においても不快な臭い音などは感じられなかった。職員が利用者の動きを常に観察できる空間づくりになっていた今後も続けてほしい
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く配置しそれぞれが座りたい場所で気の合う方同士で会話をしたり、独りで過ごされたい方は居室にソファを配置しゆっくりと過ごしていただいている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様、ご家族の意見を取り入れながら、家で使っていた物や、趣味で作っていた物などを配置し居心地の良い空間作りを心掛けている。仏壇を持ち込み水をあげている方もいる。	居室はなじみの品や写真が飾られており以前の生活の様子がわかるレイアウトになっている	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に合わせて車椅子、歩行器、シルバーカーをしながらも、手すりを使用して歩行訓練を行い、自立した生活が送れるよう支援している。		